

(別紙)

令和6年度障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業(パッケージ型導入支援)
事業報告書

自治体名 千葉県

【基本情報】

フリガナ	シャイフクシホウジン スイコウカイ
法人名	社会福祉法人 翠昂会
フリガナ	ショウガ イシヤエンセイウ エイコウエン
事業所名	障害者支援施設 永幸苑
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)	
施設入所支援	
職員数(常勤換算数)【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出(産休・育休・休職は除く)】	
54.9 人	
ロボット機器等導入完了日	令和 7年 3月26日

(1)介護テクノロジーのパッケージ型の導入について、介護ロボット等とICT機器の組み合わせを選択

【介護ロボット等】

機器の種別: ☐ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☒ 見守り・コミュニケーション ☐ 機能訓練支援 ☐ 栄養管理支援

機器名: バイオシルバー 見守り介護ロボット(aams介護セット)

機器の特徴:

リアルタイムで心拍、呼吸、体動、離床の状況を把握ができ、履歴の監理から帳票作成機能まで備えている。
また、それぞれの利用者の状況により、個々でアラートの設定やナースコールシステムと連携することで、ナースコールへの通知が可能となる。

【ICT機器】

☐ パソコン ☐ スマートフォン ☒ タブレット ☒ インカム
☐ AIカメラ等(防犯、虐待防止、事故防止など、利用者の安全安心のために活用するカメラ)
☐ ソフトウェア(事業所での業務を支援するソフトウェア(記録業務、情報共有業務、請求業務)で、各種業務を一気通貫で行うことが可能なものに限る。)
☐ ソフトウェア(バックオフィス業務のためのソフトウェア(勤怠管理、シフト表作成、人事、給与などの業務)で、各種業務を一気通貫で行うことが可能なものに限る。)

※介護ロボット等において、「見守り・コミュニケーション」を選択している場合は、上記パソコン、スマートフォン、タブレット、インカム、ソフトウェアに加えて以下の通信環境機器等の費用も対象となる。ただし、見守り記機器を効果的に活用するために必要な機器等に限る。

☒ 通信環境機器等(Wi-Fi環境を整備するために必要な経費、記録ソフトウェア、システム管理サーバー、モデム、ルータ等)

(2)パッケージ型による機器導入前の定量的指標及びパッケージ型による機器等導入後の定量的指標

①パッケージ型による機器導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	
間接業務	6 巡回・移動	67 人	6,300 件	75,600 件	20 分	1,688,400 人時間	376 時間
	7 支援記録の作成	67 人	119,700 件	1,436,400 件	10 分	16,039,800 人時間	3,573 時間
	8 職員間の情報伝達・情報共有	67 人	199,500 件	2,394,000 件	10 分	28,733,000 人時間	5,955 時間
	9 請求業務・勤怠管理・給与業務等			0 件		0 人時間	
	10 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	
	11 その他の間接業務			0 件		0 人時間	
			325,500 件	3,906,000 件		44,461,200 人時間	9,904 時間

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

以下の※1及び※2については、パッケージ型による機器導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

利用者数×1日あたりの件数×365日/12
(ただし、支援記録については出勤職員数による)

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

全処理時間/職員数

② パッケージ型による機器導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの 平均処理時間 (分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (G×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	
間接業務	6 巡回・移動	67 人	6,300 件	75,600 件	15 分	1,286,300 人時間	282 時間
	7 支援記録の作成	67 人	119,700 件	1,436,400 件	10 分	1,603,800 人時間	3,573 時間
	8 職員間の情報伝達・情報共有	67 人	199,500 件	2,394,000 件	6 分	1,603,800 人時間	3,573 時間
	9 請求業務・勤怠管理・給与業務等			0 件		0 人時間	
	10 見守り機器の使用・確認	67 人	50,400 件	604,800 件	4 分	2,701,440 人時間	602 時間
	11 その他の間接業務			0 件		0 人時間	
			375,900 件	4,510,800 件	35 分	36,047,340 人時間	8,030 時間

以下の※3及び※4については、パッケージ型による機器導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※3＞B.ひと月当たり発生件数の算出方法

利用者数×1日あたりの件数×365日/12
(ただし、支援記録については出勤職員数による)

＜※4＞D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

全処理時間/職員数

年間業務時間数想定削減率(%)

18.9%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

介護ロボットについては、対象利用者におけるリアルタイムの状況把握が可能になり、かつ、アラートの設定をしていることで利用者には何か異変が生じた際すぐに対応が可能となった。また、病院受診の判断に際し、1つの判断基準として早期対応に繋げることが出来ている。更に、日常生活を送る上での睡眠状況や心拍の変化など様々な面から原因追及をすることが容易となった。

インカムにおいては、職員間の情報伝達や情報共有のスピードが格段に上がった。また、タイムリーな情報を全体で共有することが出来るようになり、組織としての強みにも繋がって

(5)今後の課題

対象利用者が増えた際に、機器増設の可能性が高いが、費用面での不安が伴う。
また、インカムにおいても、職員数や配置状況が変わることで増設が見込まれる。

(6)気づき等について

導入することで、得られる効果としては高く、業務改善に繋がることが確認出来た。
反面、機器の使用に対する職員へのレクチャー等が予想以上に時間を要した。

(7)費用面での効果(パッケージ型による機器導入による費用の縮減の有無を必ず選択すること。)

パッケージ型による機器導入による費用の縮減

無

ロボット機器等の導入による費用の縮減が「有」の場合、以下を回答すること。

縮減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。